

継続事業評価調書

【港湾事業】

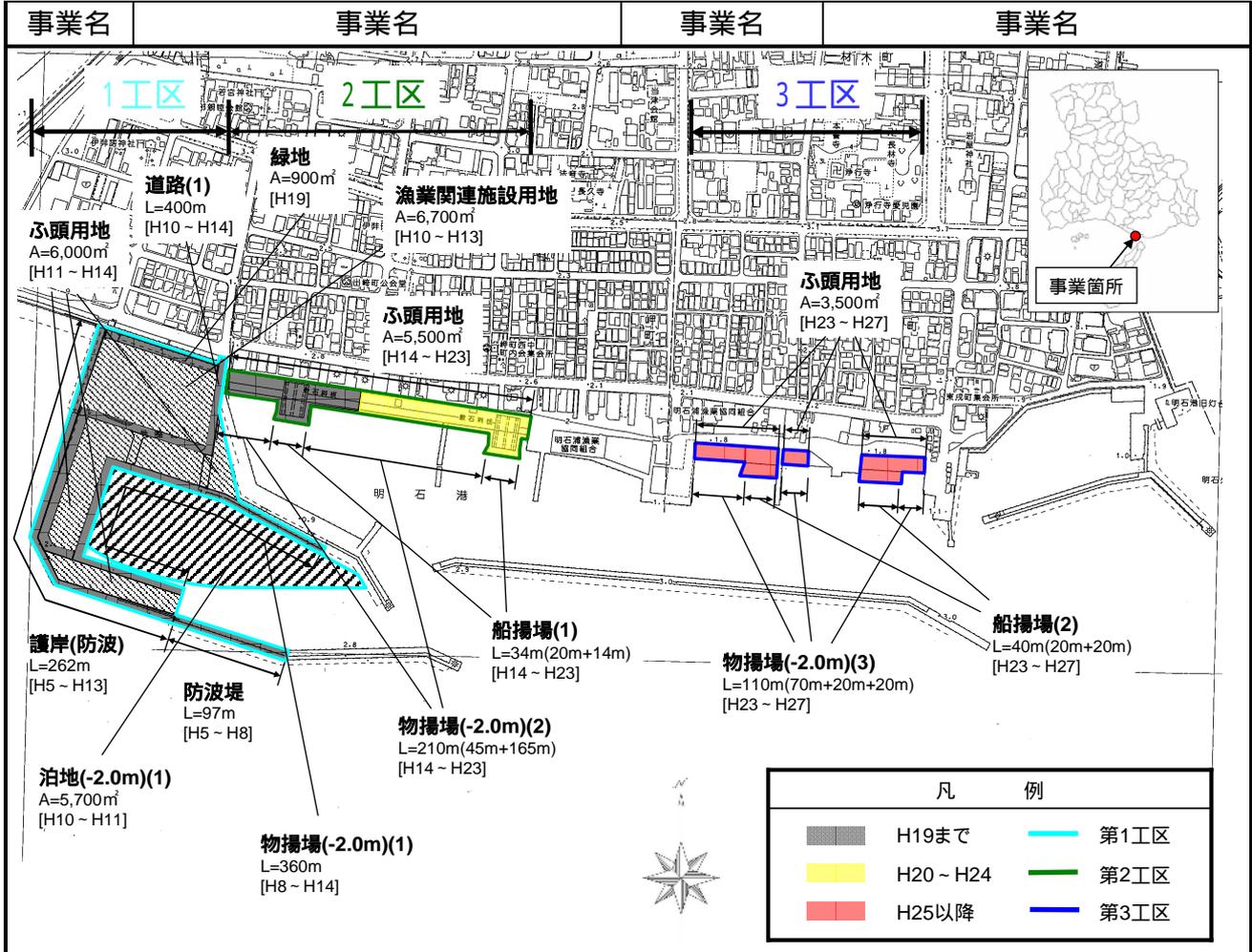
明石港（西外港地区）

土木局 港湾課

投資事業評価調書（継続：再評価〔第3回〕）

| | | | | | |
|--|--|---------------------|---|--------|----------------|
| 部課室名 | 土木局港湾課 | 記入責任者職氏名 (担当者氏名) | 港湾課長 平井 住夫 (建設係長 薬師寺 恒治) | 内線 | 4440 (4450) |
| 事業種目 | 港湾事業 | 新規評価年度 | - | 現計画 | 前回評価時点 |
| 事業名 | 改修(地方)事業 | 事業採択年度 | 平成 5 年度 | 総事業費 | 約 3 3 億円 |
| | | 着工年度 | 平成 5 年度 | 内用地補償費 | - 億円 |
| 事業区間 | 明石港西外港地区 | 再評価年度 | 平成 14 年度 | 完成予定年度 | H 2 7 |
| | | | 平成 19 年度 | 進捗率 | 9 3 % |
| 所在地 | 明石市港町～岬町 | | | 残事業費 | 約 2 億円 |
| 事業の目的 | | | 事業内容 () 前回評価時点 変更箇所のみ | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 物揚場・船揚場を整備し、漁業活動の作業効率の向上を図る。また物揚場の作業環境改善により漁船係留隻数が増加するため、明石港全体で漁船の多そう係留が改善し、玄関口である明石港の環境向上に寄与する。 西側に新たなふ頭用地を設け、ノリ加工場を集約・再編するなど、港湾機能の強化を図る。 これらにより、タイ、タ、ノ等の明石ブランドを守り育てる漁業活動の活性化を支援する。 | | | 【公共事業】 第1工区 防波堤：97m、護岸(防波)：262m 物揚場(-2.0m)：360m、道路：400m 泊地(-2.0m)：5,700 m ² ふ頭用地【県単】：6,000 m ² 漁業関連施設用地【県単】6,700 m ² 負担割合 国：4/10 県：6/10 約 24 億円 【県単事業】 第2工区 船揚場：34m(40m) 物揚場(-2.0m)：210m(220m) ふ頭用地【県単】：5,500 m ² 約 9 億円 第3工区 船揚場：40m、物揚場(-2.0m)：110m ふ頭用地【県単】：3,500 m ² | | |
| 事業を取り巻く社会経済情勢等の変化 | <ul style="list-style-type: none"> 明石市の中心市街地活性化を推進するため、明石市が主体となり県等関係者と「明石港周辺利活用計画」を策定中である。 明石浦漁協においてはノリの漁獲・生産額が最も多く、全体の約 1/3 を占める。県全体のノリの生産額は減少傾向であるが、明石浦漁協では平成 20 年度以降において増加傾向にある(平成 23 年度は過去 3 ヶ年平均比 1.34 倍)。 【前回評価時点からの事業計画の変更概要】 <ul style="list-style-type: none"> 効率的な事業推進を図るため、事業区間を 3 工区に分割して整備を進めることとし、当初は、第 2,3 工区を同時に整備予定であった。しかしながら、地元調整の結果、同時整備は、漁船の一時保管場所の確保が必要となり、周辺では保管場所の確保が困難であることから、2 工区を先行して整備し、引き続き、3 工区に着手することとなった。以上のことから、事業期間が 3 年間延長となり、完成は平成 27 年度となる。 | | | | |
| 進捗状況 | <ul style="list-style-type: none"> 第 1 工区整備済(防波堤、護岸(防波)、泊地、道路、ふ頭用地、漁業関連施設用地等) 第 2 工区整備済(船揚場、物揚場、ふ頭用地) 第 3 工区は一部整備中 H25 以降残事業費：約 2 億円 船揚場 40m、物揚場(-2.0m)110m、ふ頭用地 3,500 m ² | | | | |
| 評価視点 | 評価結果の説明 | | | | |
| 審査会意見及び対応方針 (H19 年度 再評価) | 【審査会意見】 今後は、より一般市民が親しむのもてる港としての活用にも配慮されたい。 | | 【対応方針】 「魚の棚」商店街の仕入れのための昼網(「魚の棚」HPにて PR 実施)、また昨年より魚市が開催されるなど、一般市民が親しみを持てるような取り組みが行われている。今後もこれらの取り組みと効果的に連携すべく、整備事業を推進していく。 | | |
| (1)必要性 | ・現在整備中の第 3 工区でも、係留施設及びふ頭用地が不足し、漁業活動の支障となっているため、係留施設を整備し、係留・荷揚げに係る機能強化を図る必要がある。 | | | | |
| (2)有効性 ・効率性 | ・費用便益比 B/C=3.0 (前回評価時点 B/C=3.2、残事業 B/C=7.1) ・事業区間を 3 工区に分割して順次整備したことにより、既に第 1, 2 工区は完成し、順次利用されているなど、効率的に事業を進めている。 | | | | |
| (3)環境適合性 | ・魚礁効果や汚染防止効果の発現を目指し、物揚場は消波(穴開き)構造を採用した。 | | | | |
| (4)優先性 | ・地元要望も強く、残事業費も 2 億円であることから、継続して整備を行う必要がある。 | | | | |
| 結果評価の 継続 理由 | 事業の必要性は事業採択当時と何ら変わっておらず、3 工区のうち 1,2 工区は完了していること、また、地元要望も強いことから、明石ブランドを守り育てる漁業活動を支援するため、継続して事業を実施する必要がある。 | | | | |

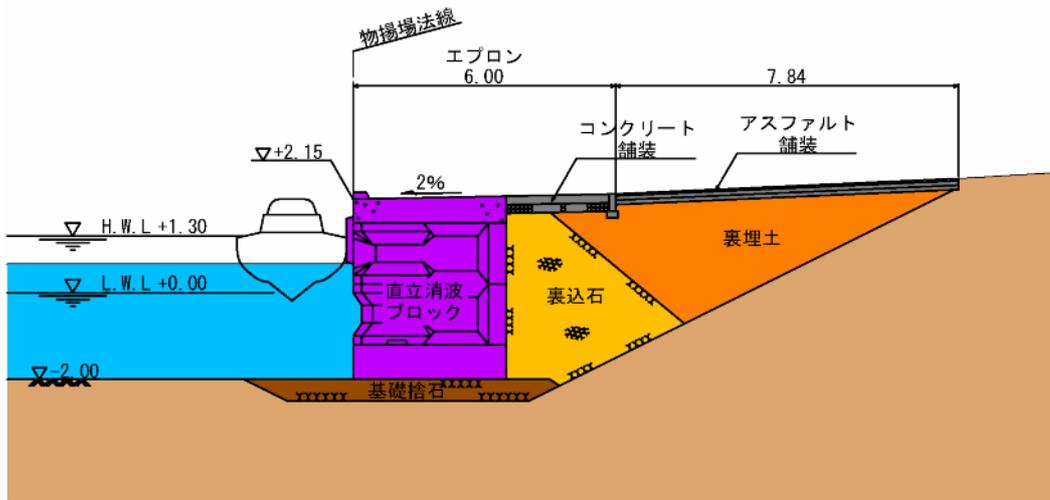
事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第3回〕）



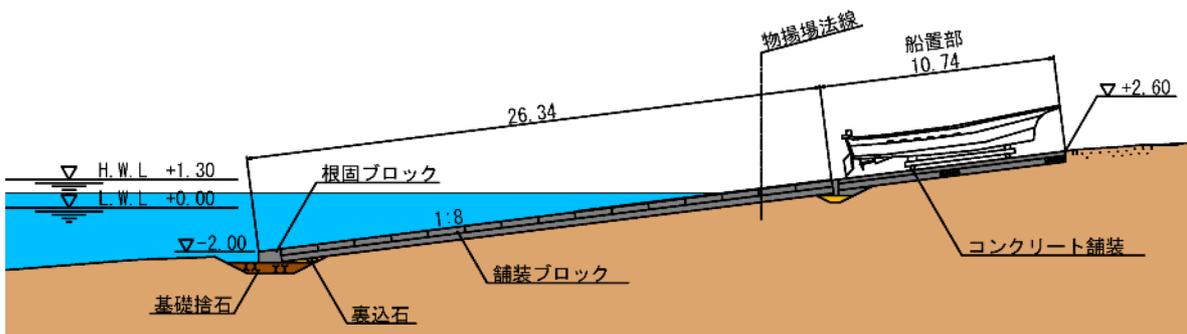
| | 事業進捗状況・予定 | 整備効果 |
|-------------|--|--|
| 全体 | <p>H5~27年度【事業費=32.8億円】</p> <p>[第1工区] 物揚場(-2.0m): L=360m 防波堤: L=97m 護岸(防波): L=262m 泊地(-2.0m): A=5,700㎡ ふ頭用地: A=6,000㎡ 道路: L=400m 漁業関連施設用地: A=6,700㎡</p> <p>[第2工区] 船揚場: L=34m 物揚場(-2.0m): L=210m ふ頭用地: A=5,500㎡</p> <p>[第3工区] 船揚場: L=40m 物揚場(-2.0m): L=110m ふ頭用地: A=3,500㎡</p> | |
| 前回再評価まで(実績) | <p>事業採択から H19年度【事業費=27.8億円】</p> <p>[第1工区] 全て整備済</p> <p>[第2工区] 物揚場(-2.0m) 75m 船揚場 20m ふ頭用地 1,400㎡</p> | <p>第1工区整備済</p> <p>新たに荷役作業スペースが確保されるなど、漁業者の作業効率の改善がなされた。</p> |
| 過去5年間 | <p>H20~24年度【事業費=2.9億円】</p> <p>[第2工区] 全て整備済</p> | <p>第2工区整備済</p> <p>漁業者の作業効率の改善がなされた。</p> |
| 今後3年間(予定) | <p>H25~27年度【事業費=2.1億円】</p> <p>[第3工区] 船揚場 40m 物揚場(-2.0m) 110m ふ頭用地 3,500㎡</p> | <p>第3工区の整備</p> <p>漁業者の作業効率の改善がなされる。</p> |

【標準断面図（第3工区）】

物揚場(-2.0m)



船揚場



【航空写真】



A



B